オーディオ実験室収載

TruPhase の活用(17)
—音源の位相確認(17)—

1．はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(16)に引き続き CD の位相確認を行います。

2．TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

Pooh's Hoop PCD 1810
J.S.Bach　オルゲールビュッヒライン BWV 599-644
塚谷水無子

キングレコード　KICC 1374
J.S.Bach　トッカータとフーガニ短調 BWV 565 他
塚谷水無子

Live Recording　SSPR-12005
J.S.Bach　わが心　主をあがめ BWV648 他
前田直子

3．TruPase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうかが焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

塚谷水無子のオルゲールビュッヒライン盤は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、クリスチャン・ミュラーのオルガンの切れの良い華やかな音の演奏は楽しめます。

塚谷水無子のトッカータとフーガ盤は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、シュニットガーのオルガンらしい深みがあって豪壮なオルガンが楽しめます。
前田直子盤は、イギリスグラスゴー大学メモリアル教会のオルガンのライブ録音です。位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと定位がしっかりして、ライブ感が出てきますが、ライブ録音の制約か分かりませんが、ペダル領域の音はブーミーになります。

４．まとめ

上記の３盤とも正相であることが分りました。

以上